

藤田 紫水（ふじた・しすい）

1、プロフィール

昭和 30 年、歩道短歌会入会。佐藤佐太郎氏に師事。歩道青森支部代表幹事、青森市短歌連盟会長。青森県歌人懇話会事務局長、東奥日報社主催県短歌大会等の選者を歴任した。

<生没>

1914(大正3)年3月15日～1988(昭和63)年6月6日

<代表作>

歌集『砂丘』『瀨音』『高原』『蕪の花』『妻に負ふ日々』『妻に負ふ日々Ⅱ』

<青森との関わり>

藤田紫水(本名・與右衛門)は北津軽郡市浦村に生まれ、警察官として就職した時より青森市に居住。

2、作家解説

昭和 12 年4月に青森県警察官に就職した藤田紫水が、俳句をやめて短歌を作りはじめたのは昭和 25 年であった。歩道短歌会には 30 年に入会したが以来、佐藤佐太郎に師事して生涯、師を畏敬してやまなかった氏は、晩年に入院するまで毎月「歩道」の投稿を休むことなく続けた。また警察署長時代、赴任した県内の勤務地において青年学級や中学校教員の課外自習に短歌を取り上げることを慫慂して実現、氏の短歌教室に多くの青年や教員が参加し、「歌人署長」として尊敬を受け親しまれた。

昭和 33 年に歩道青森支部を結成して代表幹事に就任。機会をとらえては支部記念大会の講師として佐藤佐太郎師を招聘し、本県の夏泊半島・十三瀧・七里長浜・龍飛岬・恐山・蕪島の海猫・仏ヶ浦・尾駁沼に先生の多くの名作を残した。

昭和 30 年以後の足跡を年代順にのべてみると、36 年1月、歩道同人。36 年7月第1歌集『砂丘』発刊。37 年 10 月、第2歌集『瀨音』発刊。40 年1月、第3歌集

『高原』発刊。44年4月、八戸警察署長を最後に警察官を退職。45年2月、第4歌集『蕪の花』発刊。45年7月、佐藤佐太郎第1号歌碑を県歩道支部が竜飛岬に建立。47年3月、青森県消防学校長退職。48年より61年まで青森県歌人懇話会事務局長就任。49年より61年まで青森市短歌連盟会長就任。56年11月、第5歌集『妻に負ふ日々』発刊。62年4月、第6歌集『妻に負ふ日々Ⅱ』発刊。37年より62年まで東奥日報社主催青森県短歌大会及び県内8市町の県下短歌大会の選者を歴任、青森県歌壇における指導的役割を果たした。それらの功績により昭和55年2月、第5回青森県歌人功労賞を受賞した。

歌碑の歌

満潮のさしをる前潟あかつきの茜の雲の映ゆる静かさ(昭和62年6月、北津軽郡市浦村唐川城跡に建立)。

3、資料紹介

○歌集『妻に負ふ日々』

図書

1981(昭和56)年11月30日

186mm×128mm

佐藤佐太郎に師事した著者の第5歌集「結婚以来の過去を顧みるとき、自らの生業には精勤したつもりであるが、他の一切は常に妻に負うものであった。誠に勝手気儘な生きざまをしたものである。そしてこの状態は、私の終焉までつづくことであろう」と言う著者の、妻に対する感謝がこめられている。